

埼玉県立越ヶ谷高等学校 全日制の課程
第七十二回卒業証書授与式 式辞

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた安倍首相の発言及び大野埼玉県知事のメッセージを受け、令和二年三月二日から学年末休業及び春季休業に至るまで、本県すべての学校において臨時休業が求められている中、本校の卒業証書授与式を実施すべきかどうか、大変悩みました。

県からは、卒業式を実施する場合は、感染拡大防止のための条件に基づき実施することとされています。

その条件とは、①予行等は取りやめ、式典のみの実施とすること、②参加者を卒業生及び教職員のみとすること、③会場の椅子の間隔を空けて、参加者間のスペースを確保すること、④卒業式全体の時間を短縮すること（祝辞の割愛、式辞等の文書配布、卒業証書の代表生徒授与など）、⑤必要な感染拡大防止対策を講じることの五点であります。

本校では、これらのことを踏まえ、卒業生にとっては一生に一度しかないかけがえない高等学校の卒業式であることから、その教育的意義を考慮し、県の実施条件に基づき実施することといたしました。

そのため、式典においては、参加者のマスクの着用を推奨するとともに、校長による式辞も本文書の配布による式辞とさせていただきますました。

参加を予定されていた保護者、来賓、在校生の皆さんにおかれましては、まずもってそのことを御理解くださいますとともに、本日お招きできなかったこと、心からお詫び申し上げます。

このような状況の中ではありますが、本日ここに埼玉県立越ヶ谷高等学校 全日制の課程 第七十二回卒業証書授与式を挙行できますことは、本校にとりまして、この上ない喜びであります。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

本校で過ごした三年間は、どんな三年間だったでしょうか？

皆さんの一生を考えれば、三年間というのは本当に短い期間ですが、成長期にあった皆さんのこの三年間は、短いながらも皆さんの将来の礎を築く大変貴重な三年間であったと思います。

皆さんとは、一年間のお付き合いでしたが、たんぽぽ広場、体育祭、文化祭をはじめとする学校行事や生徒会活動、部活動等において、皆さんが一・二年生を的確にリードした頼もしい姿は、今でもしっかり脳裡に焼き付いています。

皆さんのリーダーシップにより、たんぽぽ広場、体育祭、文化祭などの学校行事も成功裏に終えることができ、また、部活動においても多くの運動部・文化部が県以上の大会等へ出場を果たすなど、多くの成果をもたらしてくれました。

本校での三年間のこれらの活動を通して培われた能力を皆さんのこれからの人生に大いに生かして行ってください。

卒業生の皆さんの中には、このような卒業式になってしまい、大変残念に思っている人もいるかもしれません。

先生方も皆さんと同じ思いだと思います。

教員にとって、一番の喜びは、卒業生を送り出すことです。

まさに今日が、教員にとって最も大切な一日であります。

先生方は、もしかしたら卒業式ができなくなってしまうかもしれないの思いから、卒業生の晴れの舞台を奪わないでほしいと何度も私に訴えにきました。

年次団の先生方は、このような状況の卒業式でさえ、卒業式をできること自体に喜びを感じ、今日の日を迎えています。

当たり前のように行われている日々の出来事は、決して当たり前ではなく、できること自体が奇跡なんだと改めて感じています。

皆さんには、このような思いがけない状況をマイナスと捉えるのではなく、減多にあることではない、逆に思い出に残る卒業式として、是非プラスに捉えてほしいのです。

よく言われる「ピンチはチャンス」であります。

これからの皆さんの人生においても、苦しいこと、辛いこと等のピンチが沢山待っていることと思います。

そんな時、それをマイナスとして捉えて落胆するのではなく、改善のチャンスとしてプラスに捉えて次へのステップに繋げてほしいのです。

そうすることで人は、ピンチをチャンスに変え、一回り大きく成長できるものであります。

ピンチを迎えたら、是非今日の日のことを思い出し、ピンチを乗り越えていくてください。

結びになりますが、保護者の皆様、本日は、お子様の御卒業誠におめでとうございませぬ。

成長された我が子が高等学校の卒業を迎え、感慨も一入のことと、心からお喜び申し上げます。

これまでの本校の教育活動に対する御理解・御協力に厚くお礼申し上げます。今後とも、一番の良き理解者として、お子様を暖かく見守っていただくとともに、本校への変わらぬ御支援・御協力を心からお願い申し上げます。

大海原へと旅立つ卒業生の皆さんの前途洋々たる人生と御家族の皆さんの末永い御多幸を心から祈念申し上げ、式辞といたします。

令和二年三月十三日

埼玉県立越ヶ谷高等学校長

梶尾 勝則